

追加型投信 / 国内 / 株式

## 三菱UFJ 日本成長株オープン 〈愛称:ブルーム〉

決算・分配金のお知らせ /

当ファンドの運用チームがお伝えしたい3つのポイント

ファンド情報提供資料  
データ基準日: 2018年4月20日

平素は「三菱UFJ 日本成長株オープン 〈愛称:ブルーム〉」をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。  
さて、当ファンドは2018年4月20日に第19期(2017年4月21日～2018年4月20日)の決算を迎え、当期の分配金を2,300円(1万口当たり、税引前)といたしましたことをご報告いたします。  
今後とも引き続き、当ファンドをご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 分配金と基準価額(2018年4月20日)

分配金(1万口当たり、税引前)

2,300円

基準価額(1万口当たり、分配落ち後)

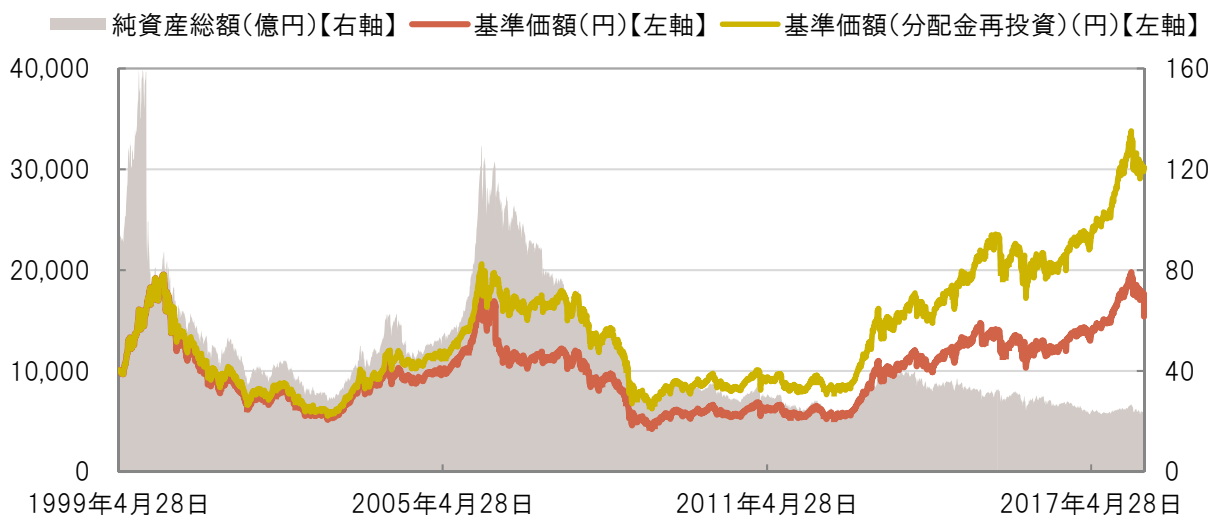
15,403円

## 【分配金実績(1万口当たり、税引前)】

第15期 (2014年4月)	第16期 (2015年4月)	第17期 (2016年4月)	第18期 (2017年4月)	第19期 (2018年4月)	設定来累計
150円	1,500円	0円	300円	2,300円	9,530円

運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

## 基準価額の推移(期間:1999年4月28日(設定日)～2018年4月20日)



- 基準価額および基準価額(分配金再投資)は、信託報酬控除後の値です。
- 基準価額は1万口当たりです。
- 基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。
- 上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。

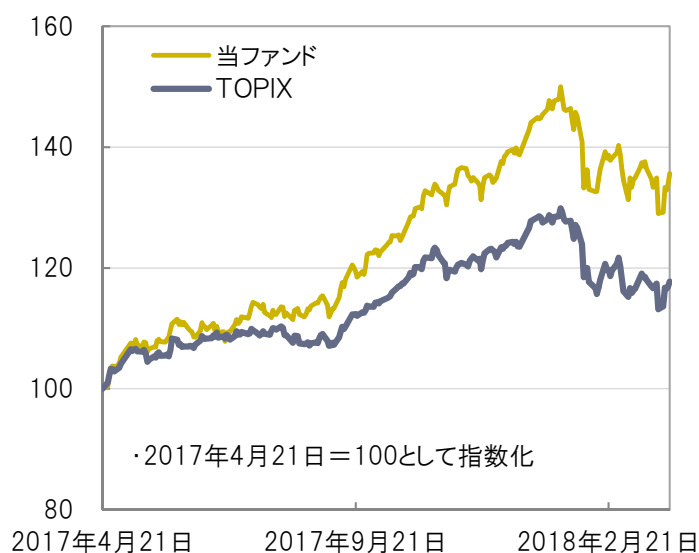
## 三菱UFJ 日本成長株オープン 〈愛称:ブルーム〉

## 足下の運用状況(2017年4月21日～2018年3月30日)

- ◆ 国内株式市場は、期首(2017年4月21日)から2017年8月上旬にかけて、米国での予算成立、堅調な国内企業業績などを背景に上昇しました。その後、相次ぐ幹部退任などによるトランプ政権の混乱や北朝鮮リスクが高まったこと、円高進行などにより一進一退となりました。
- ◆ 2017年10月から11月上旬にかけては、衆議院の解散報道とその後の与党勝利を受けて、安倍政権の基盤強化や経済政策への期待が広がったこと、および国内企業の良好な決算発表を受けて、業績拡大期待が高まったことなどから日経平均株価が一時2万3千円台に乗せるなど25年10ヵ月ぶりの高水準に達しました。その後は利益確定の売りなどから下落する局面があったものの、米国での法人税減税の実現に向けた動きが前進したことや業績の拡大期待などを背景に上昇しました。
- ◆ 2018年2月には米国金利の上昇、円高傾向などを背景に下落した後、トランプ大統領による保護主義政策が重荷となり、軟調な展開となりました。
- ◆ こうした環境下、当ファンドでは引き続き業績拡大の確度が高いと判断した銘柄を中心に投資することで、長期的に安定した値上がり益の獲得をめざし、運用を行ってまいりました。個別銘柄では、「東海カーボン」、「朝日インテック」、「エムスリー」などが基準価額の上昇に寄与した一方、「そーせいグループ」、「CYBERDYNE」などがマイナスの影響となりました。

## 当期の当ファンドおよびTOPIXの推移

(期間:2017年4月21日～2018年3月30日)



## ファンドの基準価額に影響した銘柄

(期間:2017年4月21日～2018年3月30日)

## &lt;プラスに寄与&gt;

銘柄名	
1	東海カーボン
2	朝日インテック
3	昭和電工
4	エムスリー
5	D. A. コンソーシアム ホールディングス
6	アウトソーシング
7	安川電機
8	任天堂
9	東京エレクトロン
10	資生堂

## &lt;マイナスに影響&gt;

銘柄名	
1	そーせいグループ
2	CYBERDYNE
3	イーレックス
4	マブチモーター
5	TOWA
6	エニグモ
7	川崎重工業
8	ふくおかフィナンシャル グループ
9	日立製作所
10	ツクイ

上記右図は当ファンドの基準価額上昇に寄与した銘柄およびマイナスの影響を与えた銘柄を示すために掲載したものであり、特定銘柄の推奨を目的とするものではありません。

## 今後の見通し、運用方針について

- ◆ 2018年初来の国内株式市場は、為替動向や米国発の貿易摩擦問題など外部環境の不透明感が強いいため、一進一退の方向感の乏しい動きとなりました。
- ◆ しかし、2018年4月後半以降は順次行われる企業の決算発表を受けて、株式市場は堅調な展開になると考えています。
- ◆ また、足下の株価調整によって、中長期的な見通しが良好と思われる銘柄においても割安感が強まってきている環境下において、各企業の業績や成長性が見極めがより重要視されると想定しています。
- ◆ このような想定のもと、2019年3月以降も企業業績の拡大の確度が高いと判断した銘柄を選別します。その上で、株価指標面において投資妙味がある銘柄や、業績拡大ストーリーに新鮮味がある銘柄を特に重視して運用に臨みたいと考えています。

◆ コメントおよび運用方針は、作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。・上記記載の期間中にファンドの基準価額上昇への寄与およびマイナスの影響が大きかった10銘柄をそれぞれ表示しています。・上記銘柄には途中で売却したものを含む場合があります。・当ファンドは基準価額(分配金再投資)、信託報酬控除後の値を使用しています。・TOPIXは、配当込みの指数を使用しています。・計測期間が異なる場合は、結果も異なる点にご注意ください。・TOPIXは、ファンドのベンチマークではありませんが、日本株式市場全体の動きを説明するために掲載しています。・上記(当ファンドを除きます)は指数を使用しています。指数については【本資料で使用している指数について】をご覧ください。・上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。

## 三菱UFJ 日本成長株オープン 〈愛称:ブルーム〉

当ファンドの運用チームがお伝えしたい3つのポイント

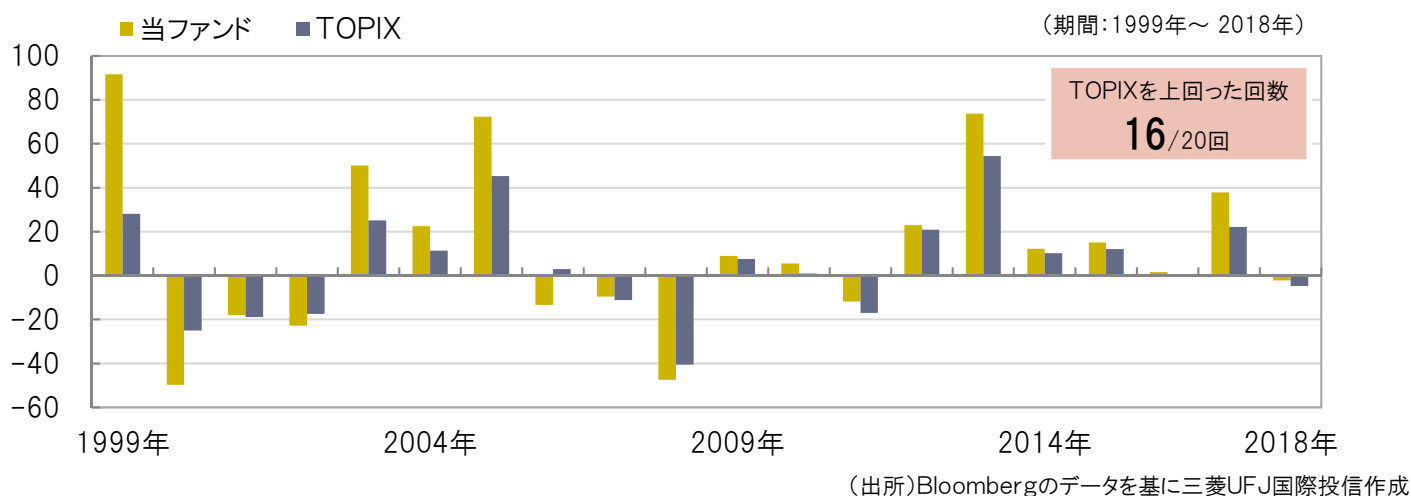
**ポイント① 2013年1月以降、比較的良好なパフォーマンス****ポイント② 当ファンドの運用について****ポイント③ 銘柄選定の着目点****ポイント① 2013年1月以降、比較的良好なパフォーマンス**

- ◆ 当ファンドは、設定来(1999年4月28日)から2018年3月30日まで、205.8%上昇しました。
- ◆ 東証一部全銘柄を対象とするTOPIXに対しても、当該期間中の年次騰落率において20回中16回上回っており、中長期的に良好な運用結果を残しています。

## 当ファンドおよびTOPIXの推移



## 当ファンドおよびTOPIXの年次騰落率



- 1999年の当ファンドの騰落率は、当初設定価額(10,000円)を起点として計算しています。
- 2018年の騰落率は、2017年12月末から2018年3月30日までのデータを使用しています。
- 当ファンドは基準価額(分配金再投資)、信託報酬控除後の値を使用しています。
- TOPIXは、配当込みの指数を使用しています。
- 当ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を再投資したもとして計算しています。また、ファンドの騰落率と実際の投資家利回りは異なります。
- 計測期間が異なる場合は、結果も異なる点にご注意ください。
- TOPIXは、ファンドのベンチマークではありませんが、日本株式市場全体の動きを説明するために掲載しています。
- 上記(当ファンドを除きます)は指数を使用しています。指数については【本資料で使用している指数について】をご覧ください。
- 上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりません。

## 三菱UFJ 日本成長株オープン 〈愛称:ブルーム〉

## ポイント② 当ファンドの運用について

- ◆ 当ファンドは、ボトムアップ・アプローチを基本とし、長期的に安定した値上がり益の獲得をめざします。
- ◆ 当ファンドの運用チームは、「成長の基盤」、「スマートな成長」、「成長のファクター」を見極めるために、下記のようなポイントに注目して企業の調査・分析を行っています。
- ◆ 当ファンドの運用体制は、グロス(成長株)チームとスモール(中小型株)チームのファンドマネジャーが一体となって、セクター動向の把握、個別銘柄の発掘に努めています。

・「ボトムアップ・アプローチ」とは、投資対象となる個別企業の調査、分析に裏付けられた投資判断をもとに銘柄選定を行い、その積み上げによりポートフォリオを構築していく方法です。

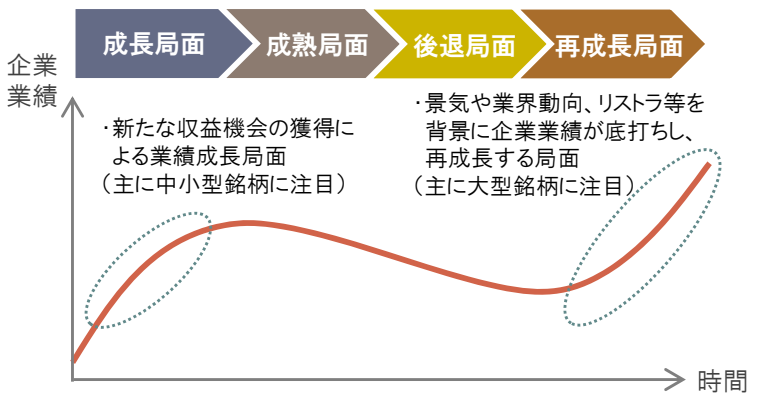
## 【ご参考】当ファンドの運用チームが銘柄を選定する際に注目するポイント

## 個別企業の調査・分析

外部環境	<p><b>企業が成長を果たす上で必要な外部環境が整っているか。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・属している業界の将来性や成長性</li> <li>・事業を行う地域の経済環境</li> <li>・競合する他社の状況</li> </ul>
事業特性	<p><b>企業が成長を果たす上で必要な基盤や事業構造を有するか。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提供する製品の独自性・将来性</li> <li>・企業や製品のブランド力・価格決定力</li> <li>・事業規模を拡大できるポテンシャル</li> </ul>
経営戦略	<p><b>企業が成長を果たす上で欠かせない組織・体制・意欲を有するか。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成長を主導するリーダーシップのある経営者</li> <li>・利益成長に向けた具体的な戦略</li> <li>・戦略実行を可能とする人材や経営資源</li> </ul>

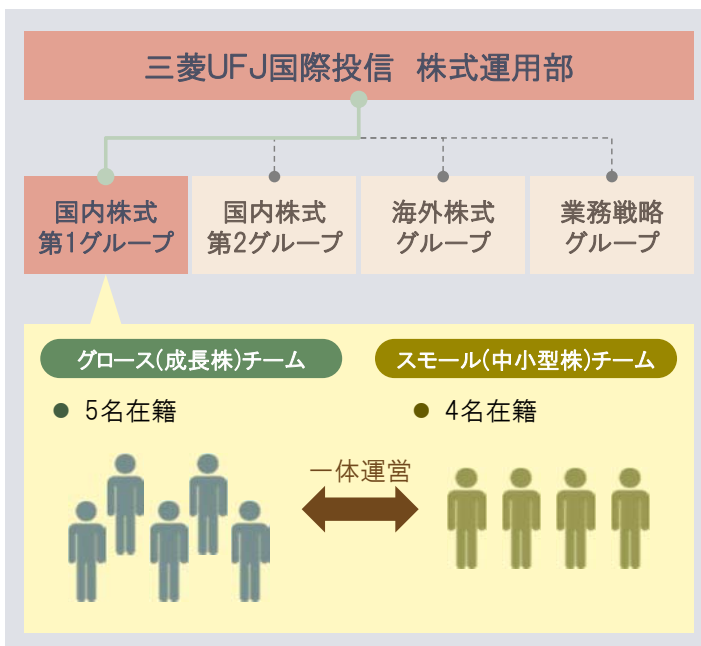
## 企業の2つの成長局面

## ◆企業の成長イメージ



・上記はイメージであり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。また、全ての企業が成長するわけではなく、期待に反して企業価値が低下していくこともあります。

## 【ご参考】当ファンドの運用体制



・上記は、2018年3月末時点のものです。組織変更等により、上記の名称・内容等は変更となる場合があります。

・コメントおよび運用方針は、作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。

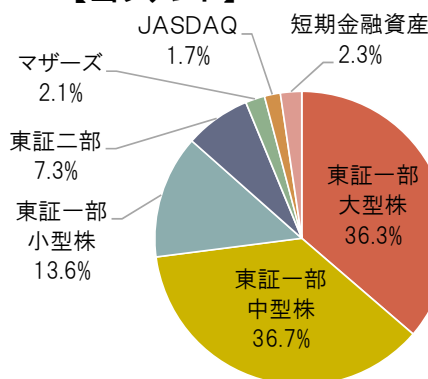
・上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。

## 【ご参考】市場別・規模別比率

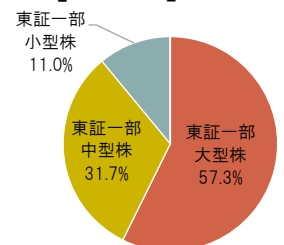
国内株式市場全体から銘柄を選定した結果、TOPIXと比較して中小型株の比率が大きく、成長局面にある企業の恩恵を受けやすくなっている。

## 【当ファンド】

(2018年3月30日現在)



## 【TOPIX】



(出所)Bloombergのデータを基に三菱UFJ国際投信作成

- ・上記では、TOPIX100構成銘柄を大型株、TOPIX Mid400構成銘柄を中型株、TOPIX Small構成銘柄を小型株と分類しています。
- ・当ファンドの比率は、純資産総額に対する割合です。
- ・TOPIXは、ファンドのベンチマークではありませんが、日本株式市場全体の比率を説明するために掲載しています。
- ・表示桁未満を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。



## 三菱UFJ 日本成長株オープン 〈愛称:ブルーム〉

## ポイント③ 銘柄選定の着目点

- ◆ 当ファンドの運用チームは、企業の製品・サービスについても着目しています。
- ◆ 製品・サービスについて、高い競争力や継続的に提供できる力を有していたり、グローバルに展開できる企業は、より業績拡大の確度が高いと考えることができるからです。
- ◆ 下記では、製品・サービスに強みを持つ組入上位2銘柄をご紹介します。



## 製品・サービスについて

- ・ 製品・サービスに高い競争力を持つ企業
- ・ 継続的に製品・サービスを提供できる企業
- ・ グローバルに製品・サービスを展開できる企業

➔ 業績拡大の確度が高い企業

## 組入銘柄のご紹介



## 朝日インテック

(業種:精密機器)



## 医療用ガイドワイヤーのシェアは国内トップ

狭心症や心筋梗塞などを治療する際に使う細い管(カテーテル)を安全・確実に血管まで通すために使われる経皮的冠動脈形成術(PTCA)ガイドワイヤーが主力製品で、同製品では国内トップシェアを誇り、世界でも上位を争う。

また、素材からの一貫生産に強みを持つ。

2018年7月から米国市場におけるPTCAガイドワイヤーの直接販売開始による収益拡大、成長している中国市場でのシェア拡大などが期待される。

## 株価推移

(期間:2005年6月17日～2018年3月30日)



(出所)Bloombergのデータを基に三菱UFJ国際投信作成



## エムスリー

(業種:サービス業)



## 医療従事者向けの情報サイト運営が主力

国内医師25万人の登録会員にインターネットを通じ医療関連情報を提供。同様のサービスを中国でも展開中。

25万人の登録医師会員を背景に、治験などでも高い競争力を持ち、米国の治験事業にも参入。更なる成長の柱として先端医療分野事業において、米国NVIDIA社と提携し、AI分野の強化を図るなど、事業価値と付加価値創造のモデルは他社を圧倒している。

## 株価推移

(期間:2004年9月16日～2018年3月30日)



(出所)Bloombergのデータを基に三菱UFJ国際投信作成

- ・ 各銘柄の株価は、取得可能日より記載しています。
- ・ 業種は、東証33業種による分類です。
- ・ 写真はイメージです。
- ・ 上記は、2018年3月30日時点における組入上位2銘柄をご紹介します。したがって、個別銘柄の推奨を目的とするものではなく、当ファンドにおいて上記銘柄を組み入れることを保証するものではありません。
- ・ 上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。

## 三菱UFJ 日本成長株オープン 〈愛称:ブルーム〉

## ポートフォリオ運用状況(2018年3月30日時点)

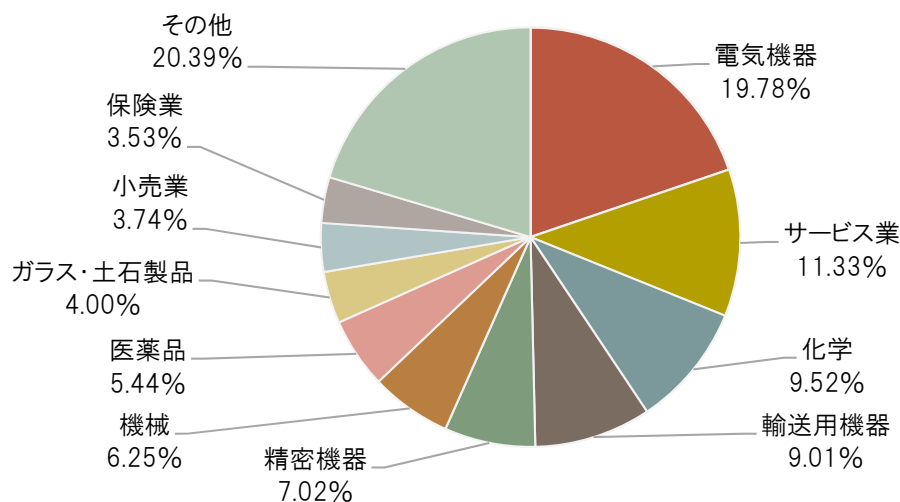
## 組入上位15銘柄

(組入銘柄数: 69 銘柄)

	銘柄	業種	比率
1	朝日インテック	精密機器	4.28 %
2	エムスリー	サービス業	3.97 %
3	東海カーボン	ガラス・土石製品	3.90 %
4	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	3.14 %
5	D. A. コンソーシアムホールディングス	サービス業	2.97 %
6	トヨタ自動車	輸送用機器	2.89 %
7	資生堂	化学	2.80 %
8	コマツ	機械	2.66 %
9	昭和電工	化学	2.61 %
10	ファーストリテイリング	小売業	2.51 %
11	日本電産	電気機器	2.45 %
12	ペプチドリーム	医薬品	2.38 %
13	ファナック	電気機器	2.35 %
14	任天堂	その他製品	2.33 %
15	スズキ	輸送用機器	2.28 %

・比率は純資産総額に対する割合です。

## 組入上位10業種



・比率は現物株式評価額に対する割合です。  
 なお、純資産総額に対する実質国内株式組入比率は97.65%です。

- ・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しております。
- ・上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。

## 三菱UFJ 日本成長株オープン 〈愛称:ブルーム〉

## ファンドの目的・特色

## ■ファンドの目的

わが国の株式を主要投資対象とし、ボトムアップ・アプローチを基本としたアクティブ運用により、長期的に安定した値上がり益の獲得をめざします。

## ■ファンドの特色

「ブルーム」の運用手法…足と頭を使って、スマートな成長を実現する方程式を見出すことをめざします。

## ＜銘柄選定の主な観点＞

- ・成長の基盤: 企業の成長のインフラ(基盤)、事業のストラクチャーを見極めます。
- ・スマートな成長: 成長に根拠や計算があるかどうかを見極めます。
- ・成長のファクター: 成長のファクターが明確であるかを見極めます。

## ■分配方針

- ・年1回の決算時(4月20日(休業日の場合は翌営業日))に分配を行います。
- ・分配金額は委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。
- ・分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

## 投資リスク

## ■基準価額の変動要因

ファンドの基準価額は、組み入れている有価証券等の価格変動による影響を受けますが、これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。

したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。

ファンドの基準価額の変動要因として、主に以下のリスクがあります。

価格変動 リスク	一般に、株式の価格は個々の企業の活動や業績、市場・経済の状況等を反映して変動するため、ファンドはその影響を受け組入株式の価格の下落は基準価額の下落要因となります。
信用 リスク	組入有価証券等の発行者や取引先等の経営・財務状況が悪化した場合またはそれが予想された場合もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等には、当該組入有価証券等の価格が下落することやその価値がなくなること、または利払い・償還金の支払いが滞ることがあります。
流動性 リスク	有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない場合または取引が不可能となる場合、市場実勢から期待される価格より不利な価格での取引となる可能性があります。

## ■その他の留意点

- ・ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリングオフ)の適用はありません。
- ・収益分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。

投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

収益分配金の支払いは、信託財産から行われます。したがって純資産総額の減少、基準価額の下落要因となります。

**ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。**

## 三菱UFJ 日本成長株オープン 〈愛称:ブルーム〉

## 手続・手数料等

## ■お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位／販売会社にご確認ください。
購入価額	購入申込受付日の基準価額 ※基準価額は1万口当たりで表示されます。基準価額は委託会社の照会先でご確認ください。
換金単位	販売会社が定める単位(ただし、1万口を上回らないものとします。)／販売会社にご確認ください。
換金価額	換金申込受付日の基準価額から信託財産留保額を差引いた価額
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して4営業日目から販売会社においてお支払いします。
申込締切時間	原則として、午後3時までに販売会社が受付けたものを当日の申込分とします。
換金制限	ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口の換金のお申込みに制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付 の中止及び取消し	金融商品取引所等における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止することがあります。
信託期間	無期限(1999年4月28日設定)
繰上償還	受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合等には、信託期間を繰上げて償還となることがあります。
決算日	毎年4月20日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年1回の決算時に分配を行います。 販売会社との契約によっては、収益分配金の再投資が可能です。
課税関係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。個人受益者については、収益分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の譲渡益に対して課税されます。NISA(少額投資非課税制度)およびジュニアNISA(未成年者少額投資非課税制度)の適用対象です。税法が改正された場合等には、変更となることがあります。くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

## ■ファンドの費用

## お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料	購入価額に対して、 <b>上限2.7%(税抜 2.5%)</b> (販売会社が定めます) (購入される販売会社により異なります。くわしくは、販売会社にご確認ください。)
信託財産留保額	換金申込受付日の基準価額に <b>0.3%</b> をかけた額

## お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 (信託報酬)	日々の純資産総額に対して、 <b>年率1.674%(税抜 年率1.55%)</b> をかけた額
その他の費用・ 手数料	有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料・有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用・その他信託事務の処理にかかる諸費用等についてもファンドが負担します。 ※上記の費用・手数料については、売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。

※運用管理費用(信託報酬)は、日々計上され、毎計算期間の6ヵ月終了時、毎決算時または償還時にファンドから支払われます。

※上記の費用(手数料等)については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計額等を記載することはできません。

なお、ファンドが負担する費用(手数料等)の支払い実績は、交付運用報告書に開示されていますのでご参照ください。

## 本資料のご利用にあたっての注意事項等

●本資料は、三菱UFJ国際投信が作成した資料です。投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。●本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。●本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。●本資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の補償の対象ではありません。●投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。

## ●委託会社(ファンドの運用の指図等)

三菱UFJ国際投信株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号  
加入協会:一般社団法人 投資信託協会  
一般社団法人 日本投資顧問業協会

<ホームページアドレス> <https://www.am.mufg.jp/>  
<お客さま専用フリーダイヤル> 0120-151034  
(受付時間 営業日の9:00~17:00)

## ●受託会社(ファンドの財産の保管・管理等)

三菱UFJ信託銀行株式会社

**ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。**



## 三菱UFJ 日本成長株オープン 〈愛称:ブルーム〉

## 販売会社一覧

ファンド名称: 三菱UFJ 日本成長株オープン

商号	登録番号等		日本証券業協会	一般社団法人 日本 投資顧問業 協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種 金融商品 取引業協会
株式会社 SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
カブドットコム証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第61号	○		○	
高木証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第20号	○			
株式会社 南都銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第15号	○			
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第164号	○		○	
丸三証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第167号	○			
株式会社 三菱UFJ銀行(*)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第5号	○		○	○
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2336号	○	○	○	○
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○

※商号欄に(\*)の表示がある場合、新規申込のお取扱いを中止しております。

## 本資料で使用している指数について

## ■ TOPIX: 東証株価指数

東証株価指数とは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。同指数に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

## ■ 大型株: TOPIX100

TOPIX100とは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を時価総額と流動性(売買代金)から区分した株価指数で、時価総額、流動性の特に高い100銘柄で構成されています。同指数に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

## ■ 中型株: TOPIX Mid400

TOPIX Mid400とは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を時価総額と流動性(売買代金)から区分した株価指数で、TOPIXの構成銘柄のうち時価総額、流動性の特に高いTOPIX100について時価総額、流動性の高い400銘柄で構成されています。同指数に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

## ■ 小型株: TOPIX Small

TOPIX Smallとは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を時価総額と流動性(売買代金)から区分した株価指数で、TOPIXの構成銘柄のうち時価総額、流動性の高いTOPIX500構成銘柄を除いた銘柄で構成されています。同指数に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。